



医師臨床研修

基幹

- 公立豊岡病院臨床研修プログラム

協力

- 京都大学医学部附属病院群Bプログラム/ Cプログラム
- 綾部市立病院合同臨床研修プログラム
- 神戸大学病院群初期研修プログラムたすきがけコース
- 兵庫医科大学病院協力型研修病院・大学プログラム
- 鳥取赤十字病院臨床研修プログラム
- 鳥取県立中央病院卒後研修プログラム

プログラムの概要

プログラム名称

公立豊岡病院臨床研修プログラム

プログラムの特徴

地域中核病院の特長を生かし、一般症例から稀少疾患まで豊富な症例を経験することが可能で、2年の研修期間を通じてプライマリ・ケアの基礎的診断能力を備えた医師の養成を目指します。

さらに、大学病院や県立病院などにおける研修機会を提供することにより、専門領域のさらなる習得を可能とするプログラムとなっています。

プログラム目標

医師としての人格を涵養し、医師及び医療の果たすべき社会的役割を認識しつつ、プライマリ・ケアを中心とした一般的な診療に適切に対応できるよう、基本的な診療能力を身に付ける。

研修科目・期間

1 年 次			
月数	26週 (6ヶ月)	4週 (1ヶ月)	8週 (2ヶ月)
ローテート 診療科	内 科 (一般外来)	救 急	麻 酔 (4週は救急)

2 年 次		
月数	4週 (1ヶ月)	42週 (10ヶ月)
ローテート 診療科	地域医療 (在宅医療) (一般外来)	選択研修(各診療科の選択は組合せ自由) ※ただし、到達目標を達成できるよう診療科を選択する必要あり ※協力型臨床研修病院(0≦2ヶ月)：京都大学医学部附属病院、神戸大学医学部附属病院、神戸市立医療センター中央市民病院、県立尼崎総合医療センター、県立はりま姫路総合医療センター、加古川中央市民病院、八鹿病院

1 ~ 2 年 次					1 ~ 2 年次
月数	4週 (1ヶ月)	4週 (1ヶ月)	4週 (1ヶ月)	4週 (1ヶ月)	4週 (1ヶ月)
ローテート 診療科	小児	精神	外科	産婦	救急外来日当直 (Walk-in)

○内科、救急、麻酔科、小児科、精神科、外科、産婦人科、地域医療、一般外来および在宅医療を必修で経験する。

○救急(必修12週)は、1年次の救急外来(4週)、麻酔科(4週)と、2年間を通じて行う宿日直(月4回程度)のうち1年次の救急研修と2年次の選択研修期間の宿日直を救急の並行研修とすることにより合計12週の研修とする。

○一般外来は、総合診療科・地域医療(必修及び選択研修)の期間中に並行研修を行うことよって計4週の研修を行う。

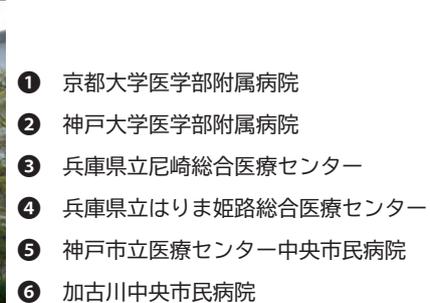
○地域医療は、出石医療センター、朝来医療センター、日高クリニック、村岡病院、香住病院または浜坂病院で行う。

○全研修期間を通じて、感染対策(院内感染や性感染症等)、予防医療(予防接種等)、虐待への対応、社会復帰支援、緩和ケア、アドバンス・ケア・プランニング(ACP・人生会議)、臨床病理検討会(CPC)等、基本的な診療において必要な分野・領域等に関する研修を行う。

選択研修科目

本研修プログラムでは、基幹型病院である豊岡病院のほかに、次の大学病院・協力型臨床研修病院と病院群を構成して臨床研修を行いますので、基幹型病院にはない診療科や高度先進医療を含めた専門性の高い研修も可能となっています。ただし、豊岡病院外での研修は最長2ヶ月までとし、研修管理委員会と協力型臨床研修病院の許可を受ける必要があります。

公立豊岡病院群（協力型臨床研修病院/施設）



- ① 京都大学医学部附属病院
- ② 神戸大学医学部附属病院
- ③ 兵庫県立尼崎総合医療センター
- ④ 兵庫県立はりま姫路総合医療センター
- ⑤ 神戸市立医療センター中央市民病院
- ⑥ 加古川中央市民病院
- ⑦ 公立八鹿病院
- ⑧ 公立出石医療センター
- ⑨ 公立朝来医療センター
- ⑩ 公立日高クリニック
- ⑪ 公立村岡病院
- ⑫ 公立香住病院
- ⑬ 公立浜坂病院



数字で見る豊岡病院

病院設立 **1871**年(明治4年)

病床数

合計 **528**床

一般 473床
 (うちICU・CCU 8床
 (うち2床は非運用)
 HCU 12床
 NICU 6床)

感染 4床
 精神 51床

医師数

147名(30名)
 ()は女性医師数

医療圏

面積 約**2,635**km²

人口 約**20.9**万人
 (但馬医療圏+京丹後市の合計)

救急搬送

6,670件/年
 (救急車+ドクターヘリ)

手術件数

3,739件/年

分娩

約**700**例/年

延べ入院患者数

147,780人/年
 (1日平均405人)

延べ外来患者数

219,108人/年
 (1日平均902人)

研修医養成実績

111人
 (2006年度~2023年度修了者)

標榜診療科目

28診療科

研修医の時間外労働時間

適用水準 **A**水準

臨床研修指導医数

32人

臨床研修プログラム定数

10人/年

超過勤務時間数

平均**695**時間/年

協力病院・協力施設数

16施設

基本領域専門研修

基幹施設

4領域

○内科 ○麻酔科 ○救急科 ○総合診療

連携施設

16領域

○内科 ○小児科 ○皮膚科 ○精神科 ○外科
 ○整形外科 ○産婦人科 ○眼科 ○泌尿器科
 ○脳神経外科 ○放射線科 ○麻酔科 ○病理
 ○救急科 ○形成外科 ○総合診療

図書

国内 約**7,200**冊 国外 約**1,100**冊

雑誌

国内 **91**種類 国外 **70**種類

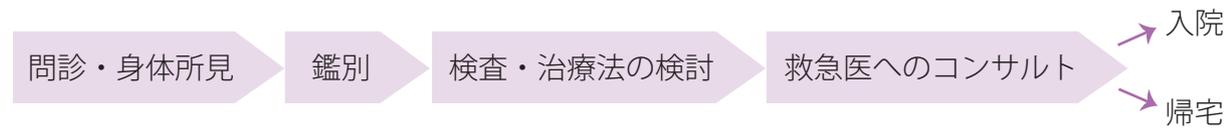
図書JP、メディカルオンライン、Clinical Keyを導入

(…2022年度実績 …2023年度実績)

経験症例 I (当直 / 救急外来)



- ・ 帯状疱疹
- ・ 頭部外傷
- ・ 閉塞性黄疸
- ・ 尿路感染症
- ・ 意識消失
- ・ 細菌性腸炎
- ・ 群発性頭痛
- ・ 小児肺炎
- ・ 小児屈筋腱断裂
- ・ 頻脈性不整脈
- ・ 胆のう結石症 など一晩 10 症例程度を経験



経験症例 II (ローテート期間)

内科をメインにローテートした K 研修医

合計 160 症例

その他の細菌性疾患	6
皮膚及び粘膜病変を特徴とするウイルス感染症	1
ウイルス性肝炎	1
消化器の悪性新生物<腫瘍>	5
呼吸器及び胸腔内臓器の悪性新生物<腫瘍>	32
中皮及び軟部組織の悪性新生物<腫瘍>	1
女性生殖器の悪性新生物<腫瘍>	1
部位不明確、続発部位及び部位不明の悪性新生物<腫瘍>	1
良性新生物<腫瘍>	1
栄養性貧血	1
糖尿病	3
その他のグルコース調節及び膵内分泌障害	1
その他の内分泌腺障害	3
症状性を含む器質性精神障害	1
統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	1
中枢神経系の炎症性疾患	1
主に中枢神経系を障害する系統萎縮症	1
錐体外路障害及び異常運動	1
虚血性心疾患	8
肺性心疾患及び肺循環疾患	1
その他の型の心疾患	12
脳血管疾患	23
動脈、細動脈及び毛細血管の疾患	2
インフルエンザ及び肺炎	8
その他の急性下気道感染症	3
上気道のその他の疾患	1
慢性下気道疾患	2
外的因子による肺疾患	4
主として間質を障害するその他の呼吸器疾患	1
下気道の化膿性及び えく壊>死性病態	1
胸膜のその他の疾患	5
呼吸器系のその他の疾患	1
食道、胃及び十二指腸の疾患	3
非感染性腸炎及び非感染性大腸炎	1
腸のその他の疾患	1
肝疾患	1
胆のう<嚢>、胆管及び膵の障害	2
尿路系のその他の障害	1
妊娠、分娩及び産じょく<褥>における浮腫、タンパク<蛋白>尿及び高血圧性障害	1
胎児及び羊膜腔に関連する母体ケア並びに予想される分娩の諸問題	1
妊娠期間及び胎児発育に関連する障害	2
胎児及び新生児に特異的な一過性の内分泌障害及び代謝障害	1
その他の先天奇形	1
全身症状及び徴候	6
画像診断及び機能検査における異常所見、診断名の記載がないもの	1
外因のその他及び詳細不明の作用	1
原因不明の新たな疾患の暫定分類	3

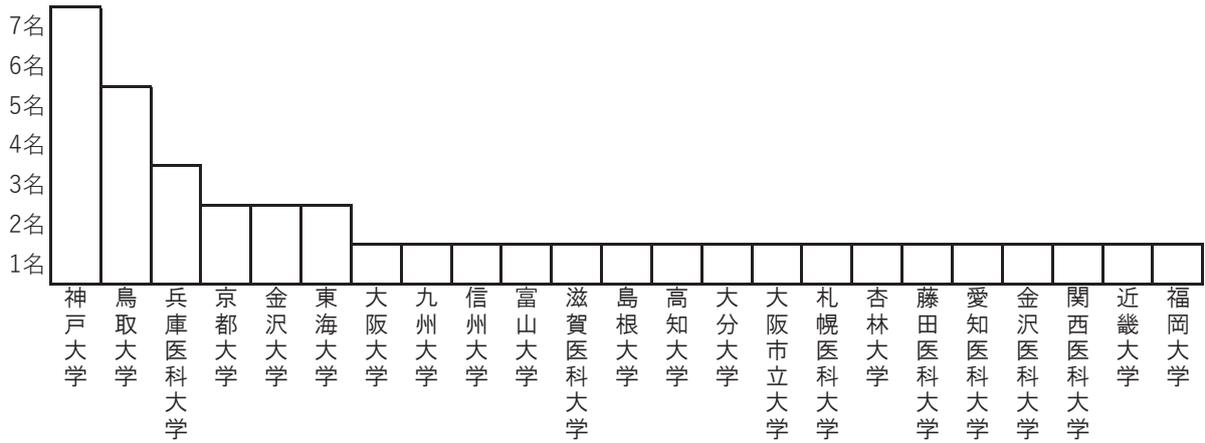
外科をメインにローテートした A 研修医

合計 112 症例

その他の細菌性疾患	3
消化器の悪性新生物<腫瘍>	17
部位不明確、続発部位及び部位不明の悪性新生物<腫瘍>	1
性状不詳又は不明の新生物<腫瘍>	2
凝固障害、紫斑病及びその他の出血性病態	1
糖尿病	5
その他の内分泌腺障害	2
栄養失調(症)	1
精神作用物質使用による精神及び行動の障害	1
統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	1
気分〔感情〕障害	1
生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群	1
錐体外路障害及び異常運動	1
揮発性及び発作性障害	5
多発(性)ニューロパチ<シ>ー及びその他の末梢神経系の障害	1
神経系のその他の障害	1
虚血性心疾患	6
その他の型の心疾患	8
脳血管疾患	21
静脈、リンパ管及びリンパ節の疾患、他に分類されないもの	2
インフルエンザ及び肺炎	2
慢性下気道疾患	2
外的因子による肺疾患	1
食道、胃及び十二指腸の疾患	3
ヘルニア	1
腸のその他の疾患	3
肝疾患	1
胆のう<嚢>、胆管及び膵の障害	7
消化器系のその他の疾患	1
全身性結合組織障害	3
分娩の合併症	1
周産期に特異的な呼吸障害及び心血管障害	1
消化器系及び腹部に関する症状及び徴候	1
全身症状及び徴候	1
外因のその他及び詳細不明の作用	2
外科的及び内科的ケアの合併症、他に分類されないもの	1

※ 2年間(2021.4.1-2023.3.31)の研修で担当医となった症例のみを抽出(退院サマリより)

研修医の出身大学



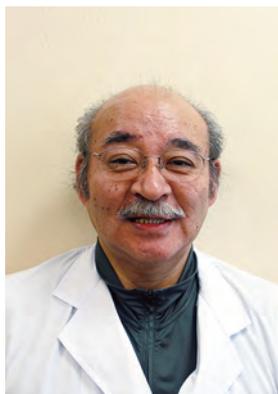
(2019~2023年度)

研修医の進路

臨床研修修了年	2020年3月	2021年3月	2022年3月	2023年3月	2024年3月
内科	神戸大学② 大阪赤十字病院①	神戸大学①	神戸大学①	神戸大学① 倉敷中央病院① 東京ベイ・浦安②	豊岡病院①
小児科		神戸大学②	神戸大学①	神戸大学①	
皮膚科					
精神科	大阪大学①	京都大学①		京都大学①	
外科	神戸市立中央市民病院①	神戸市立中央市民病院①	兵庫医科大学①	神戸市立中央市民病院①	
整形外科	神戸大学①		神戸市立中央市民病院①		
産婦人科		京都大学①		京都大学①	大阪大学① 神戸大学① 北里大学①
眼科				広島大学①	滋賀医科大学①
耳鼻咽喉科					
泌尿器科		兵庫医科大学①			
脳神経外科			神戸大学①		
放射線科					
麻酔科			北野病院① 関西労災病院①		神戸市立中央市民病院①
病理					
臨床検査					
救急科					
形成外科	新潟大学①				
リハビリテーション科					
総合診療	丹波医療センター①		丹波医療センター①		
合計	8名	7名	8名	9名	6名

○●病院/大学…基幹施設名
①…登録者数

プログラム責任者からのメッセージ



副院長・プログラム責任者
那須 通寛

我が国では、高齢者人口の増加に対処すべく医療制度改革の速度が早められ、また社会からの要請に対して専門医の質を担保するために各学会とは独立した日本専門医機構主導の制度新設が進行しています。各制度はまだ確立したものでなく、不透明な部分を残しており、これらの流れは今後 10 年から 20 年ぐらひは続いていくと考えられます。不確実な制度改革と社会の医療需要の変容の中で、医学生諸君は不安を感じながら将来の夢を描いていることと思います。私は医学部で基礎的な医学知識を獲得した後の初期研修 2 年間の目的は、臨床現場の中で医師としての適性の確認や将来の可能性の模索だと捉えています。

豊岡病院の研修では、各専門科、僻地連携病院での実習を通じ 130-200 症例を担当し、common disease の理解、臨床基本手技の研修を行うことができます。過去の臨床研修医からのアンケートでは、回収できた 8 割弱の方達から将来目指したい医師と出会えたと答えられていますので、研修先病院として一考の価値はあると考えています。

指導医からのメッセージ

呼吸器内科 兼 総合診療科



部長・副プログラム責任者
中治 仁志

今後の日本は高齢化社会が進展していくことが確実視されています。高齢化社会における医療の中で総合内科医の重要性が指摘されています。総合内科医の診療には各症例において多数の問題点・病態が存在するため、これらを整理した上で最も妥当な判断をする能力が求められます。

公立豊岡病院の総合診療科では一般内科初診症例のトリアージや common disease の診療に留まらず、各領域の専門医と連携をとりながら専門的な疾患の診断および先々の治療まで行うことにより、各疾患や病態についての診断、治療について深く理解することができます。

特に総合診療科と呼吸器内科は共同で診療しており、肺炎をはじめとする一般的な疾患から悪性腫瘍などの専門的疾患の診断、治療を含めた全てを担うことによって内科医としての醍醐味を味わうことができます。当科では毎日入院症例のカンファレンスを行っています。カンファレンスは堅苦しくない自由な雰囲気の中で各症例に対しての議論ができる環境です。各指導医・研修医が様々な症例の経験や知識を共有することにより一緒に学び、成長していくことを目標としています。内科以外の診療科を希望する研修医にとっても総合診療科での研修は今後の診療に役立つ多くの知識と経験を得ることに繋がるものと考えています。是非豊岡病院で研修しましょう。

指導医からのメッセージ

消化器科

消化器科は現在、スタッフ6名で診療業務を行っています。当院は病床数約500、癌拠点病院、3次救急病院であり急性期から慢性期まで、また良性疾患から悪性疾患まで幅広く診療しています。

特筆すべきは消化管出血に対する緊急内視鏡的止血、総胆管結石に対する緊急 ERCP など緊急処置が多いことです。また悪性疾患に対しては早期胃癌、早期大腸癌に対する内視鏡的切除術、また手術不能進行癌に対しては緩和としての胆管ステント留置、消化管ステント留置など積極的に行っています。

研修医の先生にはこれらの患者さんの担当医になっていただき、指導医とともに治療にあたっただけでなく、従いまして研修医の先生には第一助手として様々な処置に参加していただいております。スタッフが少ないこともあり研修医の先生は重要な戦力であり、決してお客さんや雑用係ではありません。処置に参加することで自分の患者さん、という意識が高まり患者さんとの人間関係構築にも寄与すると考えています。

また当科では研修医の先生に積極的に上部消化管内視鏡検査を行っていただいております。消化器研修の醍醐味は、内視鏡に触れることであると考えているからです。せっかく研修にきていただいた先生に見学だけで終わらせないように内視鏡モデルによるシュミレーション、次に実際の検査における内視鏡の抜去、そしていよいよ内視鏡の挿入、というように進めていき2カ月の研修終了時には普通に挿入から抜去まで出来るようになっていただいております（もちろん観察は2カ月ではまだまだです）。是非当科で消化器の面白さ、そして辛さも学んでください。



消化器科部長
山田 貴裕

小児科・新生児科

豊岡病院小児科は、一般病棟のみならず新生児集中治療室も有しており、未熟児から思春期まで、小児期全般をカバーしています。また、地理的な要因から、東京都の面積に匹敵する広大な但馬医療圏の小児二次医療以上をほぼ一手に引き受けています。そのため、小児科の特性から診療のメインは感染症になりますが、経験する症例の分野は多岐にわたります。患児の総数は少ないものの、小児科医人生で遭遇することがあるかどうかという稀な症例を診ることもあります。

豊岡病院ならではの特徴は以上のような点になりますが、小児科研修の醍醐味、意義は、とにもかくにも『こどもと接する機会を持つこと』です。当科は9から10名のスタッフで診療業務を行っており、研修医の皆さんには上級医とペアになって動いていただきます。上級医と言っても卒後3～5年目ですので、気軽に質問・相談してください。

1、2カ月の研修で小児の診療ができるようになればとは言いません。研修を終えたとき、「こどもと接することが怖くなくなった」と思っただけであれば、それで充分です。何科に進んでも、こどもを診ることがあるでしょう。そんなときに、小児科での研修が、こどもであるというだけで尻込みしてしまう気持ちのハードルを下げる一助になってくれるでしょう。そして、最終的に選ぶのが何科であれ、小児科での研修を経たことで、何らかの形で小児に関わる道を進む方が増えて下されば何よりです。



小児科部長
港 敏則

消化器外科

消化器外科では、食道から肛門までの消化管、肝臓・胆嚢・膵臓の外科疾患を対象に診療しています。良性疾患、悪性疾患を、診断から治療、適応を熟考して手術をすることが外科医の主要な仕事になります。消化器外科専門医がロボット支援下手術、腹腔鏡下手術、開腹手術を行っています。所謂急性期症例が多く、治療結果は迅速に現れ、良い結果も悪い結果もすぐにわかります。どの診療科も同じと思いますが、患者さんの命、人生を預かる重責を担い、治療が奏功すると、患者さんには喜ばれ、ワーク・エンゲイジメントの高揚を感じることができます。

初期研修で外科に回ることになれば、指導医に付いて診療に参加します。見学だけでは勿体ないので診療に積極的に参加する気概で研修することを望んでいます。研修の後半には、初歩的な手術の術者になることを目標に、手術を経験、研修できればと考えています。現実的には、初期研修1か月で到達するにはハードルが高いと思っています。外科への進路も考える契機になってくれれば、と考えています。

悪性疾患では定期的な術後経過観察をしますが、進行がんの場合には、化学療法も実践していきます。術前に化学療法を行ってから手術をすることもあります。緩和ケアも実践します。消化器外科は診断、治療からケアまでの幅広い分野を診る事になります。都会の大病院では分業化が進み化学療法、緩和ケアを当該科に任せるところもありますが、当院では担当科で診る事ができ、一緒に学んでもらいます。

消化器外科疾患を、Scienceに基づき、artを存分に発揮して診療していくことを心がけています。日本国内では外科専攻医が年々減少しており、消化器外科医は絶滅危惧種と心配されています。当科で実りある研修をして、消化器外科医の仲間が増える事を祈念しています。



消化器外科部長
内田 茂樹

産婦人科



産婦人科部長
松原 慕慶

但馬地方でも分娩施設の集約化は進んできており、現在当院は但馬地方で唯一の分娩施設となりました。但馬地方の分娩を一施設で取り扱うため分娩件数は年間700件前後あります。内容は比較的低リスクの低い妊婦も多いですが、NICUや他科が協力的でありハイリスク妊婦も積極的に対応しており、さまざまな妊婦を幅広くみることができます。

また分娩だけでなく良性疾患や悪性疾患の治療幅広く行っております。腹腔鏡手術など低侵襲な手術も積極的に導入しており、但馬地方の患者に都会と変わらない医療を提供できるよう産婦人科スタッフ一同で努力しております。

当院の研修プログラムでは産婦人科研修が1ヶ月あります。専任の指導医と一緒に入院患者を担当していただき、様々な婦人科的な診察や処置を経験してもらいます。産婦人科専攻希望の先生だけでなく、その他の科を志望されている先生でも近い将来に女性の腹痛の対応を迫られる場面は多いかと思えます。そういったときに少しでも自信をもって対応できるように救急対応なども指導医と一緒に経験してもらっております。

スタッフ一同、皆様が当院に研修しに来られることを心待ちにしております。

麻酔科



麻酔科部長
正田 文裕

当院の研修プログラムでは麻酔科研修が2ヵ月あります。このことに対して、これまで研修された研修医からは麻酔科の研修期間が2ヵ月は長いという意見もありました。しかし、「お客さん」ではなく麻酔科をしっかり研修するためには少なくとも2ヵ月は必要と考えています。実際、1ヶ月目でとりあえず麻酔とはどのようなものか全体像が分かってきます。2ヶ月目で指導医の指示のもとでASA1-2の患者の麻酔をかけることができるようになります。短期間の中途半端な研修をするよりも時間をかけてしっかりと研修をしたほうが有意義であると考えています。

麻酔科では他の科を回る前に習得すべき基本的な手技を習得できます。例えば静脈路確保は麻酔をかける前には絶対必要ですので毎日練習できますし、気管挿管も出来るようになります。また、昇圧剤の投与の仕方も習得できます。動脈ラインの確保も練習できます。救急科を回っても緊急性が高く、ゆっくりと上級医から指導を受けられないことが多いと思います。麻酔科を回ることで緊急時対応の基本的な事は習得できると思います。

当院の麻酔科の特徴は、心臓外科をはじめ多くの種類の手術の麻酔を行っている事、乳幼児から高齢者まで幅広い年齢層の患者の麻酔を行っている事、緊急手術の麻酔が全体の約3割と緊急の割合が多いという事です。是非、豊岡病院で研修しましょう。

救急集中治療科 但馬救命救急センター

医師として何年働くか考えたことはありますか？概ね40年といったところでしょうか。医師という職業は毎日が勉強です。しかし、医師という職業を支える礎は最初の数年にかかっているといっても過言ではありません。また6年間医学部で勉強し医師国家試験合格した後、その知識を実践可能なものにしたくありませんか。

これらの目的を達成するには、ありとあらゆる患者、疾病・疾患を数多く診ることが手っ取り早く、確実な方略になります。もちろん専門的な知識、技術の修得も大切なことです。そして何よりも優秀で熱意ある指導医の存在が不可欠です。

但馬救命救急センター（以下、「センター」という。）には救急科指導医・専門医、集中治療専門医、外傷専門医、外科指導医・専門医などを持ち、臨床研修指導医資格を有する20名を越える救急医が24時間、365日専属で勤務しています。救急医学、集中治療学を専門としている医師集団です。そして院内全科ON CALL制で、必要時はいつでもコンサルト可能です。初期研修医の日当直業務は救急医と共に救急外来、センター勤務を行い、主にはWALK IN患者のFirst Touchを行います。問診、身体所見から鑑別を行い、必要な検査、治療を考え、バックアップの救急医に必ずコンサルトを行い診療が完了します。さらに1ヶ月のセンター研修期間中は救急車対応、ICU管理も指導医と共に行います。2年間の研修実績を記録するEPOCは、毎年センターでの経験内容で埋められています。

ドクターヘリ、ドクターカーでの患者集約化による豊富な症例と充実した指導体制を持つ当センターおよび当院で医師人生の盤石な礎を築いて下さい。待ってます！！



但馬救命救急センター長
救急集中治療科部長

永嶋 太

先輩研修医からのメッセージ



中尾 高浩 医師

はじめまして。当院での初期研修でおススメしたいポイントを、いくつか紹介させていただきます。

◎研修の自由度が高い

まず、ローテーションの組み方として、研修する診療科を自由に選択できる期間が長いです(2021年度プログラムでは10か月間)。これって実は嬉しくて、自分が本当に勉強したいと思うことを、十分に学べます。研修内容としても、積極性を出せばいくらかでも症例を経験できますし、逆に忙しくなりすぎないように、ひとつひとつの症例を丁寧に勉強することも可能です。自分がしたい研修を、できる範囲で行えます。

◎地域中核病院の強み

市中病院を研修先に考える上では、やはりcommonな疾患や基礎的な手技をしっかりと経験したいという方が多いかと思います。そのあたりはバッチリで、当院は主要な各診療科が揃い、各科のcommon Disease から珍しい症例まで、まんべんなく経験できます。また、同時にローテする研修医が多すぎることもないので、症例や手技を研修医内で取り合うこともありません。

◎救急外来での診療

ドクターヘリがやはり有名ですよ。当院は常に救急科の上級医とともに診療にあたります(意外と、常に救急科の先生がいる病院は珍しいんですよ)。研修医は基本的に、1次~2次救急のファーストタッチを一人で(!)行います。自分で診察し、方針を考えたうえで、上級医と共有し、相談します。自主的に診療できるうえ、経験豊富な救急医がバックについている安心感もあります。やはりこの救急外来という場で鍛えられる力はかなり大きいと思います。

続いて、豊岡という地域について紹介します。以下まとめると、自然◎、アウトドア◎、飯◎、都会度×~△です。

まず立地としては神戸・大阪から車で2時間、京都からは2時間半くらいの時間感覚です。中心地は結構、街です。近くには豊かな自然(釣り、ダイビング、山登り、スキー・スノボ、サイクリングロード整備もOK)あり、城崎温泉あり、雲海の竹田城あり。また食べ物としては、但馬牛や、松葉ガニなどの海鮮、日本酒、さらに意外と料理屋さんも多くて、めちゃくちゃ美味しいところばかりです。(都会よりはるかにコスパ良し。)正直、雪の多さには驚くかもしれません。でもはじめて雪国に来た私としては、雪景色の美しさには感動しました。

ここまで読んでいただきありがとうございます。少しでも興味をもっていただけたなら嬉しいです。研修病院としては文句なし、また都会とは一味違った面白い生活が約束されるかなと思います。医師人生のスタートを、ぜひ豊岡病院で迎えませんか。

私は豊岡で生まれ、高校を卒業するまでの18年間を豊岡で過ごしました。大学で一時県外に出ていましたが、生まれ育ったこの地域の医療に貢献したいという思いがあり、豊岡病院で初期研修をすることにしました。

当院は兵庫県北部を中心に広範囲をカバーする、地域の最後の砦とも言える病院です。どの診療科でもcommon diseaseから時には稀な疾患まで経験でき、日々大変多くの学びがあります。救命救急センターでの勤務はwalk in患者の診療を主として、初療での対応や緊急度の高い疾患を見極める力を身につけることができます。高齢者の多い地域ですが、中核病院として周産期医療センターでの一般~ハイリスクなお産や新生児医療についても研修することができます。

働いていると分からないことや慣れない手技等に戸惑ったりすることはもちろんあります。ですが上級医の先生の手厚い指導やバックアップがあるので、安心して診療に取り組むことができます。またローテーションも柔軟に組むことができ、特に2年目では10か月近くを自分で選択します。将来の志望科やそこに関連した科、また興味がある科等を組み合わせることで各々にあった研修にすることができます。

研修医は1年目と2年目がそれぞれ10人弱で、研修するにあたり程よい人数かと思えます。同期はもちろん先輩後輩でも仲が良く、仕事の相談やプライベートの話まで気軽にできる関係です。最近ではCOVID-19も落ち着いてきており、組合病院対抗の球技大会や豊岡の夏祭り『柳まつり』での豊岡踊りに参加したりもしました。研修医同士の仲が深まるだけでなく、多職種の方々とも交流できる良い機会になっています。

馴染みのない方はどうしても田舎で不便というイメージが先行してしまうかもしれませんが、但馬は美味しい食材がたくさんあり居酒屋やご飯屋さんにも困りません。自然やアウトドアも楽しめて温泉でゆっくりすることもできます。そして何より人の温かみがある素敵なおところです。ぜひ1度見学にきてその魅力を感じてみてください。

研修医は医師としての第一歩です。この豊岡病院で様々なことを経験して有意義な2年間にしませんか。



小倉 優花 医師

Q & A

Q 研修医宿舎はありますか？

A 病院の敷地内に研修医宿舎を設けています。希望者全員に提供が可能です。

Q オリエンテーションはありますか？

A 採用時に医療安全と事故防止、医療倫理、感染管理、インスリン製剤の取扱い・麻薬について、メンタルヘルス、保険診療・退院サマリー操作説明、処方入力説明、医療情報システム研修、P-G-E P O C操作研修、臨床技術トレーニング（身体診察、縫合実習、末梢静脈血管へのアクセスとカテーテル管理）、輸液、輸液ポンプ・シリンジポンプの取扱い等の研修を実施しています。

Q ローテーションはいつ頃決定しますか？

A マッチング発表後（11月頃）に希望診療科のアンケートを実施して、3月中旬頃に決定しお知らせします。

Q ローテーションの変更は可能ですか？

A ローテーション変更前の診療科と変更後の診療科の了承があれば変更は可能です。（ただし、研修期間内に到達目標を達成できるように診療科を選択する必要があります。）

Q 豊岡病院にない診療科を回りたいのですが。

A 豊岡病院プログラムの2年目選択研修科目では、京都大学、神戸大学、神戸市立医療センター中央市民病院、尼崎総合医療センター、はりま姫路総合医療センター、加古川中央市民病院、八鹿病院での研修が可能となっていますので、マイナー科を含めた豊富な選択肢が提供できます。（院外での研修は最長2ヶ月までとします。）

Q 当直は何月頃から始まりますか？

A 4月中頃から開始します。当直に慣れるまでは2年目研修医とペアで当直を行うので安心です。

Q 勉強会・講演会・カンファレンスはありますか？

A 医療安全や感染管理研修、研修医セミナー（5回/年）、兵庫県G I Mカンファレンス（1回/月）、救命救急センターが主催する実技講座（6回/年）、救急勉強会（1回/週）などが随時開催されています。

Q 研修に対する要望は聞いてもらえますか？

A 豊岡病院では毎月研修医ミーティングを開催して、研修医から研修全般の要望を聞き取り研修環境の改善に繋げています。